

身近な地域の学習「岡山県岡山市ってどこ?!」

岡山県岡山市立富山小学校 小山宏明

1. はじめに

中学年の社会科では、自分たちが住む県のように学習する。このとき、自分のクラスの子もたちが「岡山県の位置を知っているだろうか」と考えた。自分たちが住む県のように知るためには、まず、日本の中での岡山県や岡山市のおおまかな位置をつかんで学習を進めることがたいせつであると考え、地図帳を活用した学習活動を設定した。

2. 岡山県ってどこ?

まず、学習を始める前に、自分たちが住む岡山県の位置に興味をもたせる活動を取り入れた。ワークシートの日本の白地図上に、自分が思っている岡山県の位置に鉛筆で印をつけた。岡山県のだいたいの位置に印をつけることができる児童は、半数ほどであった。そこで、本時のめあて「岡山県岡山市ってどこだろう」を確認した。

まず、子どもたちに「地図帳で調べて岡山県を赤くぬろう」と指示をした。子どもたちは地図帳のp.3を開き、岡山県の位置を確認していった。

次に、「岡山県のとりの県をみつけよう」と指示を出した。p.22を開き、「ここに大きい地図があるよ。」と声をかけている子どももみられ、地図帳をうまく使おうとしているようすをうかがうことができた。東西南北の方位を地図上で確認しながら学習を進めた。また、調べ学習を進めるヒントとして地図上にあるイラストや地名、有名な食べ物などを提示した。

3. 岡山市の場所わかるかな?

三つ目の活動として、岡山県内における「岡山市の位置と主要な市の名前や位置」をとらえる学習を設定した。今回は3市を取り上げた。p.22の地図上にあるイラストや名所、地形を3ヒント形式のクイズにして、おもな都市の位置関係を学習し

た。第1問の自分たちが住む「岡山市」と、第2問の「倉敷市」は比較的答えやすかったようである。第3問の「備前市」、第4問の「津山市」は、それぞれの市にある施設に行ったことはあるという子どもも多くいた。しかし、その地名が市の名前という概念や親近感がなかったために、ヒントを聞いても調べにくく、位置もわかりにくかったようである。

くく、位置もわかりにくかったようである。

4. おわりに

中学年の子どもたちは、地名や地図に対する興味・関心は強い。授業のウォーミングアップに行う地図帳を活用した地名探レクイズには意欲的に取り組んでいる。しかし、今回の学習で、「地名と位置を結びつけ



帝国書院「小学生の地図帳（最新版）」p.22

てとらえる」という意識がうすいことがわかった。そこで、これからの県内のようすについて学習する中で、「日本の中での岡山県」「岡山市と県内のその地域」を意識づけながら学習を進めていきたい。

また、交通や産業における他県との結びつきの学習では、地図帳を積極的に活用して、他県の位置や岡山との距離などにも興味をもたせることができるようにしていきたい。

このような活動を取り入れて学習を進めていくことで、より有効な地図帳を活用した「身近な地域をとらえる学習」ができ、その中で「地図を見る目」や「地図帳を活用する力」の基礎を育てることができると考えている。